全国高校選手権制覇へ最高のシーズン幕開け

3年ぶりV尚志

ケガもなんの！ 根性男・FW浜田 頭で合わせて決勝点

予選リーグ1位（4チーム）による1位トーナメント（T）に進出した尚志は、準決勝で市立柏（千葉）を2―0で撃破。決勝では千葉県の強豪習志野（千葉）を1―0で下し、3年ぶり4回目の優勝を果たした。

第37回郡山サッカーフェスティバル最終日（4日　郡山市・尚志高Gほか）

▽1位トーナメント準決勝
尚志2（1―0、1―0）0市立柏（千葉）
▽得点者＝【尚】篠崎、田鹿
▽同決勝
尚志1（0―0、1―0）0習志野（千葉）
▽得点者＝【尚】浜田

強豪習志野撃破

尚志が3年ぶりに優勝カップを取り戻した。笑顔のイレブンを横目に仲村浩二監督(40)は「この大会で優勝したり、習志野に勝つと全国大会に行けたりする。（シーズンに向け）春にいい準備ができた。充実した大会でした」と満足そうに振り返った。優勝した3年前の10年は、インターハイ、全国高校選手権に出場。今大会の決勝は、指揮官の母校で強豪の習志野を撃破しての優勝だけに喜びも格別だった。

もちろん苦しみながら手にした優勝だった。決勝では習志野の堅いディフェンスに攻撃のリズムがつかめず、前半は0―0。だが、後半28分に右CKを浜田が頭で合わせ先制。これが決勝点となった。ヒーローは「CKからの得点は何度も練習してきました。形はよくなかったけど、決まって良かったです」と声を弾ませた。

上3年ぶり4回目の優勝を果たし笑顔の尚志イレブン　左＜尚志・習志野＞右手親指骨折のケガを押してプレーする決勝点を決めた浜田（左から5人目）

「形はよくなかったけど決まって良かった」

浜田は2月の練習試合で右手親指付け根を骨折し、この日も右手を包帯でグルグル巻きにしたままプレーしていた。当初は手術する選択肢もあったが「手術すると1カ月以上練習できなくなる。手の骨折はサッカーに関係ない」と拒否。ケガを押して練習してきた。

100人を超える部員はその実力によって3チームに分けられている。昨年の浜田は3番目のチームだった。だが、ゴール前への飛び出しの感覚、球際の強さ、泥臭いプレーが評価され今年1月からトップチーム入りした。指揮官も「根性が座っている。甘さのあるチームの中で浜田の根性はカンフル剤だ」と評し、この日の決勝点を「神様が浜田に点を取らせてくれた」と喜んだ。

根性男・浜田

14日にはプリンスリーグ東北が開幕。浜田もメンバー登録され「レギュラー出場してチームに貢献できるよう頑張ります」と表情を引き締めた。ゲンのいい大会での優勝に、根性男の登場。インターハイ、そして全国高校選手権での優勝を狙う尚志にとっては、これ以上ないシーズンの幕開けとなった。（佐久間　尚子）

○…その他の成績…○
【最終順位】
▽2位トーナメント①利府②日大山形③宮城県工、米沢中央
▽3位トーナメント①郡山北工②モンテディオ山形ユース③第一学院、東京学館
▽4位トーナメント①郡山②新潟東③帝京長岡、郡山商
▽5位トーナメント①東京成徳②花巻東③帝京安積、安積

富岡　精神面の弱さ立て直し次へ

昨年超えられず

＜富岡＞習志野との準決勝に1―1からのPK戦（3―4）で敗れ、昨年の準優勝を超えることはできなかった。佐藤弘八監督(42)は「連戦続きでつらいのは承知している。それを言い訳にしている甘さが試合に出た」と精神面の弱さを指摘した。GK高瀬凌平主将（3年）も「気持ちの弱さが出た。何とか立て直したい。帰って練習します」と反省。すぐにバスに乗り込み福島市内の練習場に向かった。

▽1位トーナメント準決勝
習志野（千葉）1（0―1、1―0）1富岡
PK4―3
▽得点者＝【習】内山【富】佐藤大

＜習志野・富岡＞PK戦3―4で敗れ肩を落とす富岡